

2 建設業

建設業における粉飾決算を見抜くためには、未成工事支出金、前受金や完成工事未収入金等の科目に着目しよう。未成工事支出金とは、工事が未完成の段階で発生した費用を計上する勘定科目だ。建設業では工事進行基準に基づき収益を計上するが、この過程で収益や費用を意図的に操作できてしまう。そのため、未成工事支出金が増加している場合は、適正な工事進行割合に基づいて計上されているか、費用が過大に計上されているかの確認がカギとなる。工事進行割合が過大に見積もられると、収益の過大計上につながるかねない。その裏付けとなる、実際の工事進捗

POINT

未成工事支出金の計上段階で意図的に操作可能
財務と実際の工事の進行状況をリンクさせ確認する

工事の実態を確認

状況を確認したい。前受金とは、工事契約に基づき顧客から前払いで受け取った金額を指し、完成工事未収入金は工事が完成したものの、まだ顧客から受け取っていない金額を指す。前受金が増加している場合、工事が適正に進行しているか、前受金を実際に受け取られているかを確認する。一方、完成工事未収入金が増加している場合は、工事が実際に完成しているか、収入が適正に認識されているかをチェックすれば、粉飾の兆候を捉えることが可能となる。

売上債権回転率を計算

分析を行う際には、売上債権回転率を活用してその変動要因を探ろう。売上債権回転率は「売上高÷平均売上債権」で求めることができ、企

POINT

商品の取引が多く、在庫や売上計上の粉飾が多い
売上債権が集中している取引先の信用状況も確認

3 卸売業

卸売業では多くの商品が頻繁に取引されるため、在庫管理や売上計上において粉飾の可能性が生じやすい。そのため、売上債権（未収金）と在庫が特に重要となる。

これらの勘定科目が急激に増加している場合、架空の売掛金や在庫が計上されている可能性が高い。前期と比較しながら詳細に分析を行い、異常な増減の理由を突き止めることが必要だ。

業の売上債権管理効率を測れる。

売上債権回転率が低下していれば、売上の回収が遅れている可能性がある。特に、売上債権が特定の取引先に集中している企業は、その取引先の信用状況も合わせて確認しておく必要があるだろう。

在庫の管理は売上原価を平均棚卸資産で割ることで、在庫管理効率が把握できる。通常、在庫回転率が急激に低下していると、在庫が過剰に積み上がっていることが多い。前年と比べて売上が横ばいか減少しているのに在庫が増加している場合は、過剰在庫や不良在庫化を疑おう。

POINT

商品の取引が多く、在庫や売上計上の粉飾が多い
売上債権が集中している取引先の信用状況も確認

7業種で解説!

業種別に財務分析の着眼点を押さえよう

企業は財務状況を実際よりも良く見せるために粉飾し、決算書を意図的に操作する。ここでは7つの業種別に、粉飾決算の可能性を見抜くためのポイントを解説する。

小橋一輝 OREZ, Financial Consulting

1 製造業

製造業では、在庫や製造原価の操作が粉飾決算の主要な手段となる。そのため、在庫管理と製造原価の2つが重要なポイントだ。

在庫が急激に増加している場合は、実際の販売見込みと一致しているか確認する。前年と比べて売上が横ばいか減少しているにもかかわらず在庫が増加していれば、過剰在庫のリスクが高い。例えば、売上が前年比で10%減少している一方で在庫が30%増加していれば、過剰在庫のリスクが高いと判断できる。

特に、期末に急激な売上の増加が見られる場合は要注意だ。売上の増加が、実際の出荷状況や受注残高と一致しているか確認したい。

原価管理効率を把握

製造原価においては、原価が急激に減少している場合、その理由を明らかにしたい。原価操作の多くは、製品のコストを過小に見積もることで行われる。そのため、売上原価を売上高で割った「売上原価率」で企業の原価管理効率を把握することが重要だ。

仮に取引先の売上原価率が急激に低下しているならば、原価が適切に計上されていない可能性が高い。売上増加に対して原価が減少している場合は、特に不正な原価計上が考えられるため注意する必要がある。

POINT

売上が減少している一方で在庫が増加していたら要注意
コストを過小に見積もることで原価が操作される